

第77回

広島大学総合科学研究科 21世紀プロジェクト
「言語・情報研究プロジェクト」

事態把握からみる 日本語と中国語

日時
場所

2019年
11月5日 火 16:30-18:30

演者

総合科学研究科 教室K209
佐々木勲人 先生 (筑波大学)

内容

私たちの言語は事実をありのままに語っているわけではない。事態を把握しそれを言語化していく話者が異なれば、語られる内容にも自ずと違いが生じる。そこには認知の主体である話者の事態に対する捉え方の違いが反映されている。近年の認知言語学の成果によって、日本語は主観的事態把握を好むのに対して、中国語は客観的事態把握を好む言語であることが明らかになってきた。本発表では、具体的な言語現象を取り上げながら、事態把握に関わる日本語と中国語の共通点と相違点について考えてみたい。